

2025年11月18日(火) (第10回)

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

保育園番号	66-1035
園名	さんいく保育園有明

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2025年11月18日(火)

- ・収穫したさつまいものつるを使って、リース作りをしよう！
- ・様々な素材に触れながら、表現することを楽しむ。

<テーマの設定理由>

- ・収穫したさつまいものつるを使用していることを知り、さつまいもの芋の部分だけでなく、葉やつる、根にも興味をもつ。
- ・自分で好きな素材を選び、手先を使用しながら、自分だけのリースを作る。

2. 活動スケジュール

○振り返り

- ・前日にいもほりセブンからの届いた手紙を一部抜粋して(昨日に引き続き)読む。
- ・芋掘り遠足のことを思い出せるように話した後、収穫したさつまいものつるで作ったリースについて話す。さつまいものつるがイメージできるように、つるが描かれている絵本を見せながら行う。

○活動について

- ・リースに使う素材やボンドの使い方、約束事を知らせた。
- ・3、4、5歳児の順でリースの素材を紙コップに入れて運び、リース作りを始める。
- ・リースの素材が足りなくなった場合は、各自取りに向かう。ボンドで固定が難しい場合は、子ども達から離れた場所にいる保育者がブルーガンでつける。
- ・完成した子ども達から保育者に名前シールや飾るための紐をつけてもらい完成。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

リース素材…松ぼっくりやどんぐり、葉は2種類を用意(金色のスプレーで染めたものと自然のままの状態のもの)、その他の自然物(オクラの実、猫じゃらしなど)、6色の毛糸、画用紙で作った柗、折り紙で作った雪の結晶、丸い形のフェルト、その他。

道具…ボンド(子どもが使用する)。必要に応じて、保育者がグルーガンを使用して固定する。製作用シート、容器(素材入れ)、紙コップ(子どもが素材を入れる時に使用)、紐(リース作りを吊るすため)、パーテンション(グルーガンを使用する時に使う仕切り)名前シール。

・手紙にリース作りについて話があったため読むと、「昨日いもほりセブンから(手紙が届いたんだよね」と手紙に関心がみられた。以前いもほりセブンから手紙が届いたことを知ると、5歳児の男の子がいもほりセブンになりきって手紙を書く姿があった。

・さつまいものつるを使っていることを知ると、絵本を見せたことでイメージできる子もいるが、丸まっているリースを見て不思議そうにする姿があった。

・リースでは普段使用する機会の少ない素材もあり、説明をすると「これは?」「どんぐりが金色!」「これ使いたい」など期待感をもっていた。

・リース作りでは自分で選んだものをどのようにつけるか考えたり、友だちのつけている素材を探しに移動したり、友だちとやりとりしながら作っていた。ボンドでは固定できない部分があり、別の場所に控えている保育者にグルーガンでつけてもらう。子どもの手が届かないように、パーテンションを置きグルーガンを使用した。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・さつまいもの芋に注目をすることが多いが、今回はつるに目を向けられる機会となった。様々なものに目を向けて関心をもてるきっかけをつくれるようにしていきたい。
- ・様々な種類の素材を用意したことで選択肢が広がり、1人ひとり違ったリースができた。3, 4歳児はボンドを使うことが初めてであったが上手に使っていた。5歳児の子どもはトナカイに見立てて作る子もみられ、年齢関係なく楽しんでいた。素材が途中で足りなくなってしまうことがあり、可能な範囲で増やしながらすすめた。3クラス合同のため、種類を選別し、量を増やすことも考えられると良かった。
- ・話し合えるタイミングを見つけて話し合いを行っていたが、準備期間があまりなく保育者同士のイメージが異なる場面があった。余裕をもちながら、保育者同士連携できるといいと感じた。